昭和八年四月十九日大阪中央公会堂に於て左記議題を審議決定せり

一、第十七回國際労働經営会議議題に関する件、二、満洲問題及國際聯盟脱退問題に対し代表としてとるべき態度　三、日本労働組合会議地方協議会設置に関する件、四、メーデーに関する件　五、本年七月白耳義ブラッセルに開かるゝIFTU(國際労働組合聯合)大会に本年度労働代表一行を本組合会議の名に於て反証代表として出席せしむる件、六、東京百斯産業労働組合加盟の件、七、ソ聯邦國営漁場使用邦人漁夫使用に関する件、八、持込み平議は原則としてこれを承認せざるの件、九、國際労働機関に対する組合会議のとれる態度を説明する印刷物作成配布の件

⑨ 満洲問題及國際聯盟脱退問題に対し代表としてとるべき態度

四月十九日開催された組合会議第四回執行委員会に於て満洲問題に就ては昭和七年九月廿六日の第二回評議員会に於ける申し合せ一今日の時局とは直ちに関係あるものと考へないが資本主義を擁護発展せしむる事を究極の目的とする侵略戦争には無産階級代表の立場より反対しなければならぬ一を我國人口問題移住問題殖産問題欧洲諸國と

其殖民地との関係等を材料として敷衍説明すべき事一國際聯盟脱退従って是より生ずる國際労働機関に対する態度については二月廿五日の日本労働組合会議政治委員会の決議一聯盟脱退は我國に大なる不利を齎らすものであると信ずる。更に國際労働機関より脱退するが如き事あらんか労働階級に一大失望を与へ引いては思想の悪化を助長し我國産業の甚大なる損失を招来するものなりと確信する一を敷衍説明する事にしたいと書記局より提案せるに対し。これに対し各委員より種々意見の陳述があったが第一の問題について坂本代表から我々は資本主義的侵略戦争には反対すべきであるが同時に國際間のトラブルより至戦争は人口問題等種々不平等資源不衡平等の問題に起因して起って居り又將来も起りうると云ふ事を否定する事は出来ないとの意見が提案され結局九月廿六日の評議員会の申合せの精神を該旨として、その説明に関する表現は全部代表に一任すると云ふ事に意見の一致を見た。

第二の問題に対してもそれ〳〵各委員より意見ありたるが結局労働組合会議本来の目的は経済及労働問題の解決にあるを以てこの問題に関する代表の説明は國際聯盟に対する態度よりも主として日本労働組合会議が國際労働機関を死守すべき態度に到達せる事情を説明する事を求